論文審査及び最終試験又は学力確認の結果の要旨

㊥ ・ 乙	氏　名	中谷　陽子
学　位　論　文　名	Relationship Between Environmental Factors Including Nutritional Status and Stress of Pregnant Women and Birthweight in Shimane Prefecture	
学位論文審査委員	主　査	稲垣　正俊　印
	副　査	岩下　義明　印
	副　査	鞍嶋　有紀　印

論文審査の結果の要旨

申請者らは、平均出生体重が全国平均より低く、低出生体重児の出生割合が全国平均より高い島根県において、児の出生体重に影響を与える環境要因（栄養摂取状況、ストレス、就労）を明らかにすることを目的として研究を行った。Survey 1 では 26 名の妊婦の妊娠初期・中期・後期に食物摂取頻度調査を実施した。妊娠中の栄養摂取状況と児の出生体重との間に相関は認められなかった。妊娠期間中にストレスを感じている群は、ほとんど感じない群に比べ児の出生体重が有意に少なかった。Survey 2 では、妊娠初期の 84 名の妊婦に行った栄養調査、ストレススコア（日本版社会的再適応評価尺度）、就労状況と児の出生体重との関連について分析を行った。ストレススコアの点数が 300 点以上の高ストレス群と 300 点未満の低ストレス群で児の出生体重に有意差は認めなかった。高ストレス群の方が平均エネルギー摂取量をはじめ多くの栄養素を有意に多く摂取していた。これらの結果から、妊娠初期にストレスを感じていても、推奨エネルギー必要量に近いエネルギーを摂取し、バランスのとれた食事をすることにより、児の出生体重へのストレスの影響が少なくなる可能性が示唆された。

本研究の結果は、今後の島根県内の児の低出生体重の改善に資する知見となり、学術的に価値のある研究である。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

本研究は、平均出生体重が低い島根県において関連要因を探索的に検討したものである。過去の知見と異なり栄養摂取やストレスとの関連を認めず、これらの相互作用の検討の必要性が示された。質疑応答から関連する知識も十分にあり、博士授与に値すると判断される。（主査：稲垣　正俊）

申請者は、低出生体重児が増加している原因について、栄養とストレスの面に注目して探索的な研究をおこなった。妊娠中のストレススコアが高くとも食事摂取量とバランスが十分であれば低出生体重児は増えない可能性を示唆した。申請者は臨床研究の方法論を理解し、今回の研究の限界と次の研究課題について考察できており、学位授与に値すると判断した。　（副査：岩下　義明）

本研究のテーマは現代本邦における医療の Hot topic であり重要な問題と思われる。島根県の妊婦の栄養状況、ストレス、就労状況について端的であるにしても研究をされたものであり、非常に貴重と思われる。研究方法や結果の解釈に制約はあるものの、発表はわかりやすく、丁寧であった。今後の研究に資する知見で、学位授与に値すると判断した。　（副査：鞍嶋　有紀）

（備考）要旨は、それぞれ 400 字程度とする。